

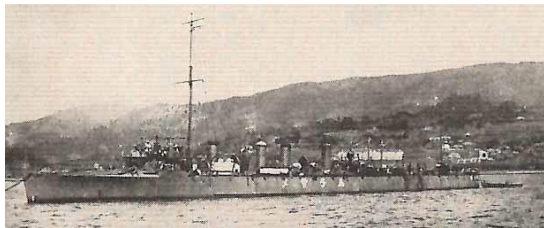
## 甲状腺外科草子 11

### 「鬼貫」蘇生ス：鈴木貫太郎提督

杉野 圭三

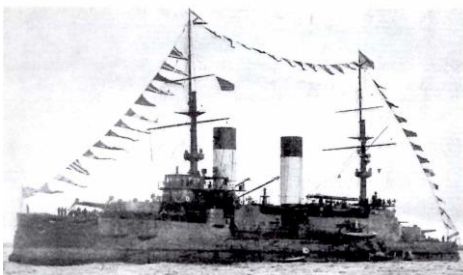
終戦時の第 42 代首相 鈴木貫太郎 (1868-1948) は海軍兵学校 14 期卒で日清・日露戦争を通じ駆逐艦艦長・司令を務め、その猛訓練と勇猛果敢な戦闘指揮から「鬼貫 (鬼の貫太郎)」と呼ばれていた。しかし、幼少期は「泣き貫」とよばれるほどの泣き虫であったと伝わる。小さい頃から、暴れ馬に蹴られそうになったり、溺れそうになっても不思議と助かる運勢の良さを持っていた。

海軍時代にも数多くの危機に会いながら、その都度乗り越え、日本海海戦では第 4 駆逐隊司令として、「朝霧」に座上し「村雨」、「朝潮」、「白雲」を率いた。



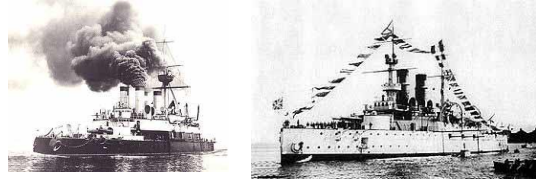
春雨型三等駆逐艦「村雨」、375 トン、31 ノット

この戦いでは戦艦「スワロフ」、「ナヴァリン」、「シソイ・ヴェリキー」への雷撃を成功させる大戦果を挙げている。



戦艦スワロフ (14,415 トン)

自伝によると、5 時 5 分ごろ命令を受け、600m まで近づき「村雨」の水雷が命中し「スワロフ」が傾くのを確認した。

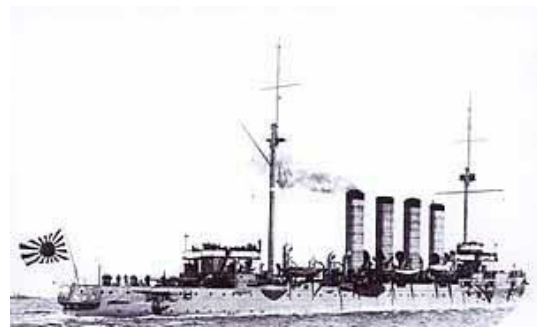


左：戦艦ナヴァリン (10,206 トン)

右：戦艦シソイ・ヴェリキー (10,400 トン)

夜戦となり午前 2 時半、戦艦「ナヴァリン」に「朝霧」が 600m、「白雲」が 300m から水雷を命中させ 5 分間で沈没させている。「シソイ・ヴェリキー」にも命中させたが沈没しなかった。

日露戦争後、鹵獲されたロシア巡洋艦「ヴァリャーグ」は日本海軍に編入され、練習艦「宗谷」として就役し、貫太郎が艦長に任命された。



「宗谷」(元ロシア海軍ヴァリャーグ,6604 トン)

貫太郎が練習艦隊遠洋航海で士官室に貼った「奉公十則」の一部を記す。常に徳を修め智を磨き、日常の事を学問と心得よ。

公正無私を旨とし、名利の心を脱却すべし  
共同和諧を旨とし、常に愛敬の念を存すべし。  
法令を明知し、誠実に之を守るべし。

自己の職分は厳に之を守り、他人の職分は之を尊重すべし。

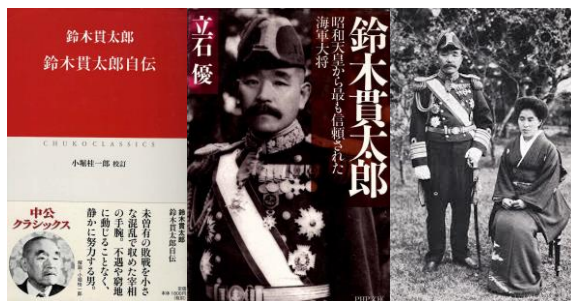
自己の力を知れ、驕慢なるべからず。

易き事は人に譲り、難き事は自ら之に当たるべし。



自筆の奉公十則

その後、海軍兵学校校長、呉鎮守府長官、海軍次官、連合艦隊司令長官、海軍軍令部長を歴任したが、昭和4年（1929）に昭和天皇の希望で侍従長に就任した。そして、昭和11年（1936）2月26日を迎え、朝4時に官邸を襲撃した20-30人の兵士に囲まれた。



その時の状況を自伝から引用する。「理由を聞かせて貰いたい」と話したが、「時間が無いので撃ちます」と言われ、「已むを得ません、お撃ちなさい」と言って、一間隔たった距離に直立不動で対峙した。2人の下士官の初弾は当たらず、2発目が股、三発目が左乳の5分ばかり内側の心臓部に命中、更に頭と肩にも当たった。「トドメ、トドメ」と連呼する声があったが、タカ夫人が「トドメはどうかやめていただきたい」と言い、指揮官の安藤輝三大尉は「トドメは残酷だからやめろ、閣下に対して敬礼！」と号令し、引き揚げた。それから、タカ夫人が圧迫・止血に努め、電話で侍従に往診を依頼

し、鹽田重廣博士（自伝原文のまま）が到着し、本格的な止血を行ったが、体を動かしたのち、意識も脈も止まった。懸命の蘇生や、リンゲル注射で意識が戻り、輸血も行われ快方に向かうことができた。



二・二六事件：決起した兵士達 塩田重廣教授

頭部の銃弾は頭蓋骨をぐるりと回り左耳に抜け、左胸の弾は心臓をわずかに外れ、左腿の弾は辜丸で止まり、肩の弾は真綿入りの寝巻を通らず落ちた。自伝では鹽田重廣となっているが、正確には鹽田重廣教授（東大第二外科2代目教授、1890-1965）であり、濱口雄幸首相、平沼麒一郎首相の手術を行った外科医である。

ようやく危機を脱した後、ボール球のように腫れた貫太郎の陰囊を見た塩田博士の一句。

「鉛玉、金の玉をば通しかね！」。  
 いやはや、この余裕には参りました！

参考文献

1. 鈴木貫太郎自伝。中公クラシックス、2013.
2. 立石優、鈴木貫太郎。PHP文庫、2000.
3. 小松茂朗、終戦時宰相 鈴木貫太郎。光人社NF文庫、2015.
4. 東大病院だより、53、2006

（一甲状腺外科医の徒然なる随想）

2021年12月14日